



デンタルハイジーンBOOKS

はじめて学ぶ

非経口摂取患者の 口腔衛生管理

要介護から人生の最終段階まで

著

阪口 英夫
柿木 保明
小笠原 正
齋藤しのぶ

基本から
知識とテクニックが
やさしく学べます



医歯薬出版株式会社

2. 経口摂取できなくなった人の口腔はどうなるの？



経口摂取できなくなると起こる問題

① 口腔機能の低下が起こる

口から食べなくなると、当然ですが口腔機能が低下します。まず唾液の分泌が低下するため、口腔乾燥になってしまいます（☞ p.12）。単純に水を飲まなくなるために、脱水状態にもなります。脱水状態になると口腔は乾燥してきます。口唇の乾燥なども伴うため、見た目でも判断できます（図1）。口腔乾燥とともにみられるのが剥離上皮膜です。剥離上皮膜は、本来食べ物などの接触で剥がれ落ちる口腔粘膜の角質層が、口腔乾燥と相まって、たいへん目立つ状態になることです（☞ p.16）。

口腔機能が低下すると、特に弱くなるのが舌の動きです。口唇や頬の筋肉は比較的運動が保たれるものの、舌の力が低下してしまうので、結果として歯列の乱れが生じます（図2）。歯列の乱れは、咬合できなくなったり、歯列の舌側（口蓋側）が磨けなくなったりするなど、口腔ケアが困難になる原因にもなります。特に意識障害で開口するのが困難な状態になると、さらに磨きにくくなります。歯があまりに舌側（口蓋側）に倒れこんでしまっている場合には、抜歯も検討されます。

また口腔機能の低下によって、口の中を自然にきれいにする作用（自浄作用）も低下してしまいます。そのため、経口摂取していない人の口は、たいへん汚れています（図3）。意識がない



図1 脱水症患者に現れた口唇乾燥



図2 神経難病患者にみられた歯列不正



1. 口腔衛生管理の基本 Step



基本のテクニックを習得しよう

“人生の最終段階”における口腔衛生管理では、口腔の専門家である歯科の介入が欠かせません。しかし、口腔を熟知し全身状態の変化を理解している歯科衛生士でさえ、洗口ができなかったり、開口困難・拒否、口腔機能低下による口腔の著しい汚染、口腔乾燥、出血傾向のある方への対応に戸惑うことがあるのではないのでしょうか。その際、「口腔衛生処置のテクニック・知識」および「患者さんにどう寄り添うべきか」を理解したうえで、基本のテクニックを習得し、いかに応用できるかがたいへん重要となります。本項では、まず基本的な口腔衛生管理の流れを把握しましょう。

口腔衛生管理の基本 Step

Step 1 準備

Step 2 ポジショニング

Step 3 心構え

Step 4 口腔清掃

Step 5 保湿

人生の最終段階における口腔衛生管理では、非経口摂取患者の剥離上皮膜に対する粘膜処置がありますが、基本のテクニックはもちろんのこと、いかに患者さんを不快にさせないかが最大のポイントとなります。

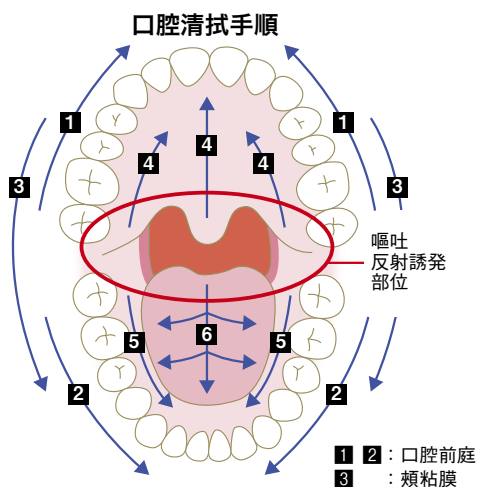
汚れさえ除去できればよいというものではありません。つねに患者さんの気持ちを重視し、併せて全身状況を把握しながら口腔衛生管理を行っていく必要があります！



口腔清掃の流れ



2 スポンジブラシの基本操作



左図の順番で、スポンジブラシにて清拭していきます。嘔吐反射誘発部位は、開始後すぐには触れずに、慣れてから実施するのが望ましいです。



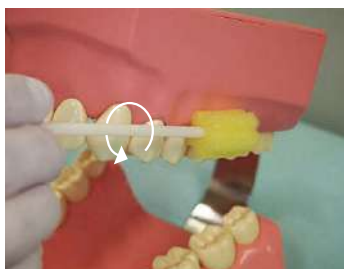
“心構え” がもてるよう、声かけ後にやさしくていねいに触れましょう！



口唇周り接触

口唇接触

1 上顎口腔前庭 (左側)



- ・操作方向：奥から小帯に向かって
- ・回転方向：歯肉に沿って、上から下に左回転させながら（右側は右回転）

2 下顎口腔前庭 (左側)



- ・操作方向：奥から小帯に向かって
- ・回転方向：歯肉に沿って下から上に右回転させながら（右側は左回転）

3 頬粘膜 (左側)



- ・操作方向：上から下に向かって頬粘膜に膨らみをもたせるように
- ・回転方向：右回転させながら（右側は左回転）

4 口蓋側



- ・操作方向：奥から手前に向かって（慣れるまで手前のみ清拭）
- ・回転方向：前転させながら

5 舌側 (左側)



- ・操作方向：奥から前歯部中央に向かって（舌と歯列の間にスポンジブラシを挿入し歯肉に沿わせる）
- ・回転方向：左回転させながら（右側は右回転）

6 舌



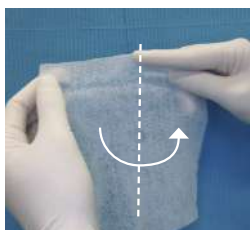
- ・操作方向：一定方向だけでなく、葉脈を描くように奥舌から舌尖に向かって（慣れるまで手前のみ清拭）
- ・回転方向：後転させながら



口腔清拭シートの使用法

口腔清拭シートは、洗口が難しい方の汚れの除去と回収にも使用できます。ただし乾燥した粘膜は傷つきやすいので、口腔を湿潤させてから使用しましょう。利き手の人差し指に巻きつけて使用しますが、その巻き方が重要です。また、口腔に直接指を入れるため、巻き方、操作方法、強さの加減などの配慮が必要となります。

① 口腔清拭シートの巻き方



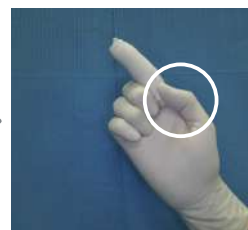
① 人差し指（利き手）は口腔清拭シート上部に添え、口腔清拭シートは半分に折る



② 人差し指（利き手）を口腔清拭シートの間に挟む



③ 口腔清拭シートを人差し指（利き手）に巻きつける



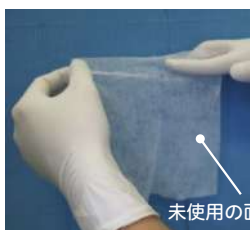
④ 巻き終わった端は親指で押さえておく



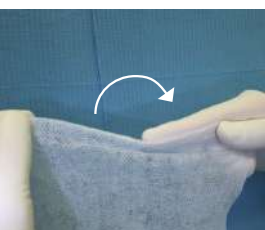
⑤ 1回の清拭ごとに人差し指（利き手）に巻きつけていた口腔清拭シートを一巻きずつ広げ親指で押さえておく（未使用面を出すため）



⑥ 汚れが付着したら、そのつどティッシュにて拭き取り回収する。適切に使用すれば1枚の口腔清拭シートで多くの汚れを回収することが可能。⑤・⑥を繰り返す



未使用の面



⑦ ②に状態に戻ったら、①と同様に口腔清拭シートを開き、人差し指（利き手）を使用済みの面の間に挟み直す



⑧ 新しい清拭面にて③と同様口腔清拭シートを人差し指（利き手）に巻きつける



⑨ ④と同様に巻き終わった端は親指で押さえ、新しい清拭面にて⑤・⑥のとおりに清拭する



3 洗口不可能（唾液は吐き出せる）



対象者：口腔機能が低下し、むせはあるが、舌の突出可能な方

A 指示が入り、セルフブラッシング可能な方

B 指示が入るときに入らないときがあり、セルフブラッシング不可能な方



1) 問題点

- ①嚥下機能低下により洗口が中止されていても、舌が突出可能であれば唾液を吐き出せる可能性は高いが、見落とされていることが多い
- ②ブラッシング後、唾液を吐き出したり、汚れを「回収」することなく、口腔ケアを終了しているケースが多い

2) 解決策

- ①洗口不可能だが、ガーグルベースンを準備しておき、ブラッシング（**A**セルフブラッシング、**B**介護者によるブラッシング）後、可能な限り食物残渣や唾液等を吐き出してもらう
- ②その後、口腔内を確認し、**A**は磨き残しがあるならば仕上げ磨きを行い、口腔清拭用品で清拭する。**B**は口腔清拭用品で汚れを回収する

少量であっても唾液を吐き出す動作は、口腔周囲筋を使い、口腔リハビリにつながる

4 洗口不可能（唾液も吐き出せない）



対象者：口腔機能が低下し、むせがあり舌の突出も不可能な方（指示が入らず、セルフブラッシング不可能な方）

1) 問題点

- ①食後、食物残渣等が停滞している可能性が高い

2) 解決策

- ①口腔ケアを含めた全介助を実施する
- ②口腔機能が大きく低下し口腔内の汚れも多くなるので、歯科衛生士による口腔衛生処置介入が必要であり、介護者との協力が欠かせない

とろみのついた水で洗口させたり、洗口でなくお茶などを飲ませてケアを終了するのは誤った方法です。汚れを口腔内に停滞させたり、誤嚥のリスクが高まります

